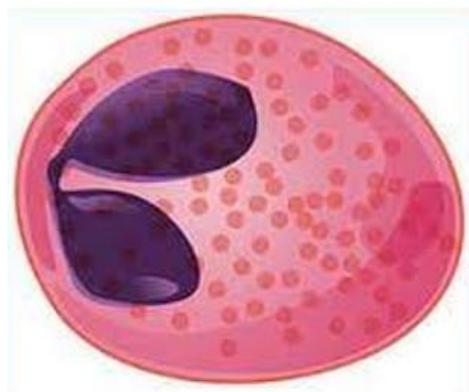


好酸球性食道炎とは

食物を含むなんらかの物質が抗原となってアレルギー反応がおこり、食道に好酸球が浸潤して慢性炎症を引き起こし、これが原因となって食道の運動異常や知覚異常を起こす病気です。



好酸球



特に、牛乳と小麦がアレルギーの原因となっていることが最も多いといわれています。また、成人では、空気中の抗原物質（花粉やカビなど）がアレルゲンのこともあります。

小児から成人まで幅広い年齢層で発症し、男性に多いとされています。



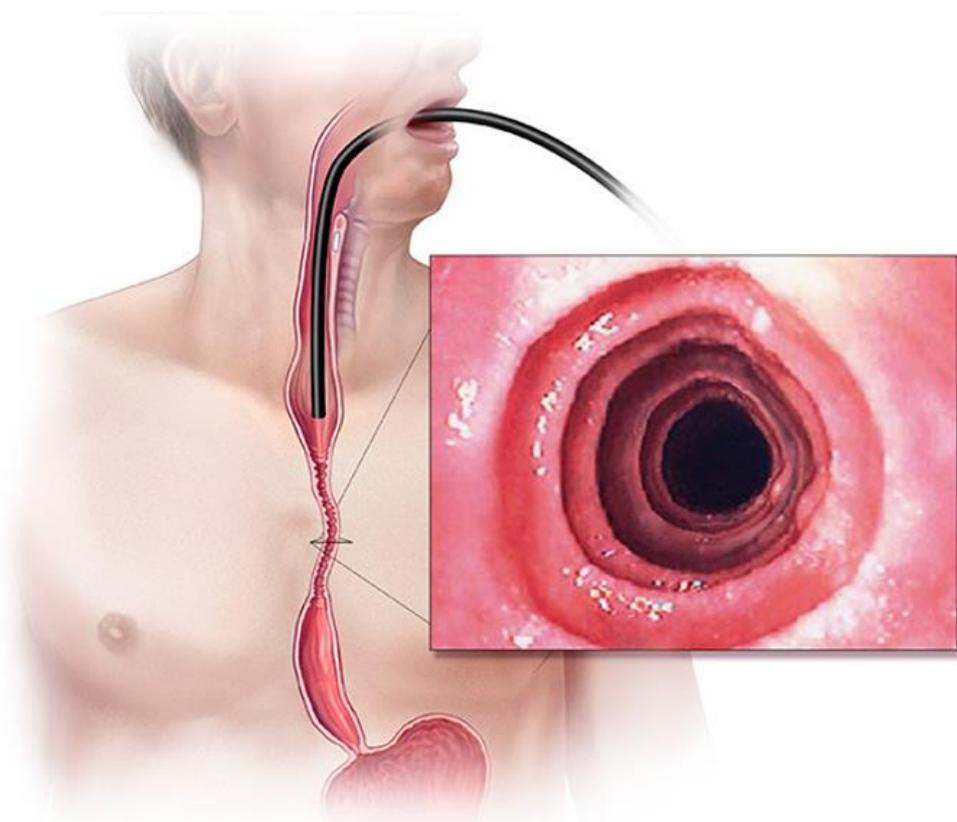
背景に気管支喘息などアレルギー疾患を持っている方が多いと言われています。

● 好酸球性食道炎の症状

主な症状は、胸痛、胸やけ、嚥下障害、食物のつかえ、腹痛などです。小児では哺乳が上手にできなくなったり、嘔吐、腹痛などが主な症状です。



好酸球性食道炎では、長期に経過すると
食道の繊維性の狭窄が起こり、食道の通過
障害を起こすことがあります。



● 好酸球性食道炎の治療

慢性的な経過をたどることが多い病気です。原因となるアレルゲンがわかり、それを除くことができれば完全に治ることもあります。原因を見つけない場合には長期の薬物治療が必要になったり、薬物治療を中止すると再び症状が現れることがあります。

アレルギーは食品であることが多いため、小児では、アミノ酸成分栄養食のみの食事をすると、症状は1週間程度、食道粘膜は1か月程度でよくなります。また、牛乳、小麦、卵、大豆、ピーナッツなどのナッツ類、海産物の6種の食品を除いた食事をするとよくなることが報告されています。



一方で、血液検査でアレルギーを検索し、食物アレルギーを除く試みは成功することが少ないと報告されています。

薬物療法は、ステロイドの局所療法や全身投与による治療が行われています。胃酸を減らすプロトンポンプ阻害薬が有効なこともあります。



----- 補足 -----

● 新たな治療薬登場

米食品医薬品局（FDA）は、ヒト型抗ヒト IL-4/13 受容体モノクローナル抗体のデュピクセント（一般名デュピルマブ）について、体重 40kg 以上の成人および 12 歳以上の小児患者の好酸球性食道炎に対する治療薬として承認したことを発表しました。

—好酸球性食道炎の診断指針—

1. 症状（嚥下障害、つかえ感等）を有する。
2. 食道粘膜の生検で上皮内に 20/HPF 以上の好酸球が存在している。
(生検は食道内の数か所を行うことが望ましい。)
3. 内視鏡検査で食道内に白斑、縦走溝、気管様狭窄を認める。
4. CT スキャンまたは超音波内視鏡検査で食道壁の肥厚を認める。
5. 末梢血中に好酸球増多を認める。
6. 男性
7. プロトンポンプ阻害薬は無効でグルココルチコイド製剤が有効である。

1 と 2 を満たすものを対象とする。これら以外の他の項目は参考とする。

好酸球性食道炎の内視鏡像

● 白斑



● 縦走溝



● 気管様狭窄



※ 30%は内視鏡で異常がない